

10月2日(土)
14:30-17:40

<p>会場 法学部 (A1教室)</p>	<p>日本地域学会 第36回(1999年)年次大会シンポジウム</p> <p>ネオ・ルーラリズム時代の田園政策</p> <p>座長: 福岡克也(立正大学) 鈴木多加史(関西学院大学)</p>
	<p>開催主旨: 農山村地域は単に食糧供給の基盤であるだけでなく、広く国民に生活・就業・レクリエーションの場を提供したり、あるいは適切な農林業活動を通じて国土の保全や水資源の涵養、自然環境の保全といった多面的で公益的な機能を発揮する場でもある。周知のように、高度経済成長期以降、農山村地域は一般に衰退傾向にあるが、しかしその一方で近年、国民の価値観の多様化を背景に、農山村地域に対して環境教育や余暇活動の場あるいは都市住民の新たな居住空間としての期待が次第に高まりつつある。本シンポジウムでは、近年のこうした都市住民の田園回帰指向をネオ・ルーラリズムとして位置づけ、阿蘇地域における様々な取組みを織り交ぜながら、農山村地域のもつ多面的・公益的機能を活かした総合的・計画的な田園整備政策について検討する。</p> <p>14:30-14:40 主旨説明</p> <p>14:40-15:05 基調報告 地域づくりの新たな実験—阿蘇地域の最近の動きを例に— 報告者: 若井康彦((財)阿蘇地域振興デザインセンター事務局長)</p> <p>15:05-15:30 農村政策の新たな展開—中山間地域直接支払制度を中心に— 報告者: 倉嶋清次(農林水産省九州農政局農政部長)</p> <p>15:30-15:55 グリーンホリデーと田園居住 報告者: 佐藤 誠(熊本大学教育学部教授)</p> <p>15:55-16:00 recess</p> <p>16:00-16:50 パネルディスカッション パネリスト 山中 守 (九州東海大学) 徳野貞雄 (熊本大学) 山崎 朗 (九州大学)</p> <p>16:50-17:30 一般討論 17:30-17:40 まとめ</p>